

## ■ご挨拶

# 風力発電設備との係わり

日本風力発電協会 副代表理事 **鈴木 和夫**  
株式会社 日立パワーソリューションズ



### 1. はじめに

今年度より副代表理事を拝命しました鈴木和夫と申します。

一昨年度は、協会関係者を含む関係団体のご努力により、固定買取制度が施行されましたが、同時に環境アセスメント法改正適用も実施され、昨年度の風力発電設置容量は 73MW 程度に留まっており、アセス期間短縮以外にも解決しなければならない導入環境条件整備が顕在化してきています。特に、環境省導入目標（2020 年 1,100 万 kW）が、環境先進国に比べかなり低い目標値でもあるにも係わらず、その達成可能性さえ厳しい状況にあります。このため、規制緩和を含む導入環境条件整備の他に、発生しない超低周波音への誤解の解消、台風・乱流・冬季雷対策の徹底、更に気象予測を含む出力変動予測技術開発を進め、連系可能量拡大を進める必要があります。引き続き、会員の皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

### 2. 自分の業務

私は、(株)日立パワーソリューションズに勤務しており、ドイツ ENERCON 社の代理店、建設工事、及び共同保守サービスを行っています。

我々は、お客様に ENERCON 社機の特長をご理解頂くと共に、導入環境の変化、地域特性に合うシステムを提供し、事業者の皆様に最適な事業環境をご提案し、採用頂く事です。

現在、風力発電設備、出力変動緩和システム、バイオマス発電設備等との複合システム提案も含め、さらに地域特性に合致したシステム提案を進めております。

### 3. 小型風力発電の苦い歴史からのスタート

日立グループでは、オイルショック後の 1970 年代後半に、小型風力発電設備の開発に係わり、1979 年に、北海道 M 町に出力 10kW（当時の日本最大容量機）の風力発電機を納入しましたが、当時は技術的に未熟な部分も多く、ブレード破損等の事故もあり、最終的に安全上の問題で、ブレード回転をロックしました。

また、1982 年には、K 公社の送電線保安小屋に建設する小型風車の引き合いを頂き、最大風速 70m/s にも耐えられる風車を納入しましたが、峠下からの 70m/s を超える吹上風によりブレードが飛ばされるなど、風力発電機の難しさを改めて勉強させられた貴重な経験の歴史がありました。

このため、我々が 1996 年に風力発電ビジネスを新たに開始するに当たっては、慎重論も多く、信頼性の高い風力発電設備の納入が、日立グループとして、このビジネス再開の前提でもありました。



北海道 M 町 10kW 風力発電機（1997 年撮影）

### 4. 事業用風力発電設備との係り

1990 年代の地球温暖化問題のクローズアップと新エネルギー導入促進機運の高まりに呼応して、1995 年に改めて風力発電設備の実態調査した結果、欧州での風力発電設備の進展を踏まえ、信頼できるメーカーとタイアップして風力発電設備を輸入し、弊社のエンジニアリングと保守サービスの経験を加味して風力発電ビジネスに参入することにしました。

私は、19 年前の海外調査から風力事業に係わり、ドイツ風力研究所（DEWI）や型式認定試験をしている Wind-Test 等に行き、大型風力発電設備の稼動状況を調査し可変速発電設備の性能が高いことを学ばせていただきました。

現在は、ENERCON 社風車を国内に約 240 基を納入、保守対応をしております（E 社納入実績は、約 24,000 基）、既設設備の高稼働率維持と、次期案件計画提案に努めております。